

《トリプル維新ファンド(安定タイプ) 組入ファンドと月次変動》

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

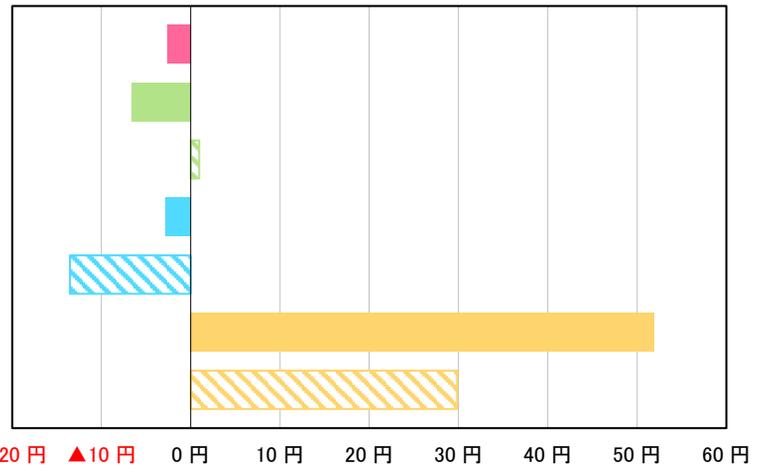
投資信託証券(ファンド名)	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和証券投資信託委託	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.8%	+2.4%	+5.5%	+36.1%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-2.0%	+0.9%	+4.6%	+35.9%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+0.3%	+6.4%	+13.4%	+49.1%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.6%	-2.3%	-6.1%	+1.7%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-2.7%	+0.0%	-2.2%	+7.9%
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.0%	+0.5%	+1.1%	-2.6%
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.1%	+0.9%	+3.1%	+4.3%

※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2017年8月末の基準価額	10,215 円
2017年7月末の基準価額	10,168 円
変動額	47 円
内訳	合計
国内株式ファンド	▲3 円
先進国株式ファンド	▲7 円
新興国株式ファンド	1 円
国内REITファンド	▲3 円
先進国REITファンド	▲14 円
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド	52 円
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド	30 円
小計	57 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲10 円



※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

ファンドマネージャーのコメント

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

北朝鮮に関する地政学リスクが意識されたことで、市場のリスク回避姿勢が強まったことを受け、先進国債券(為替ヘッジあり)ファンドや新興国(為替ヘッジあり)ファンドがファンドの上昇に貢献しました。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



愛称:トリプル維新ファンド(安定タイプ)/(成長タイプ)

信託期間 : 無期限

決算日 : 毎年6月23日(休業日の場合翌営業日)

基準日 : 2017年8月31日

追加型投信/内外/資産複合

《トリプル維新ファンド(成長タイプ) 運用実績と資産内容》

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

2017年8月31日現在

基準価額	10,835 円
純資産総額	30億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-0.2 %
3カ月間	+0.5 %
6カ月間	+1.2 %
1年間	+3.5 %
3年間	-----
5年間	-----
年初来	+2.3 %
設定来	+8.4 %



※「基準価額(分配金再投資)」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(7ページ目の《ファンドの費用》をご覧ください)。
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額(分配金再投資)」を用いた騰落率を表しています。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

分配の推移

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (17/06)	0円

分配金合計額 設定来: 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

通貨別構成(純資産比)

通貨	比率
日本円	71.1%
米ドル	18.6%
ユーロ	3.4%
香港ドル	1.5%
豪ドル	1.1%
韓国ウォン	0.8%
台湾ドル	0.6%
英ポンド	0.6%
シンガポール・ドル	0.4%
その他	1.9%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

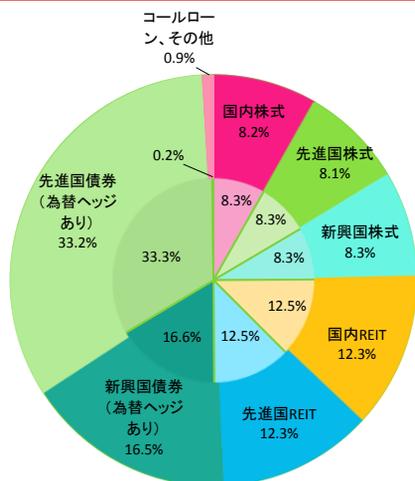
※比率は、組入ファンドの合計です。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

国・地域別構成(純資産比)

国・地域名	比率
アメリカ	28.3%
日本	21.5%
フランス	4.3%
イタリア	3.4%
イギリス	3.4%
ドイツ	2.7%
メキシコ	2.3%
中国	2.2%
トルコ	2.2%
その他	29.8%
合計	100.0%

資産別組入ファンド比率(純資産比)



成長タイプ	基本配分比率	2017年7月	2017年8月
国内株式ファンド	8.3%	8.2%	8.2%
先進国株式ファンド	8.3%	8.2%	8.1%
新興国株式ファンド	8.3%	8.3%	8.3%
国内REITファンド	12.5%	12.3%	12.3%
先進国REITファンド	12.5%	12.4%	12.3%
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド	33.3%	33.0%	33.2%
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド	16.6%	16.5%	16.5%
コールローン、その他	0.2%	1.2%	0.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※円グラフの内側の数値は基本配分比率、外側の数値は基準日ベースの実際の組入比率です。

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

《トリプル維新ファンド(成長タイプ) 組入ファンドと月次変動》

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

投資信託証券(ファンド名)	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和証券投資信託委託	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.8%	+2.4%	+5.5%	+36.1%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-2.0%	+0.9%	+4.6%	+35.9%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+0.3%	+6.4%	+13.4%	+49.1%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.6%	-2.3%	-6.1%	+1.7%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-2.7%	+0.0%	-2.2%	+7.9%
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.0%	+0.5%	+1.1%	-2.6%
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.1%	+0.9%	+3.1%	+4.3%

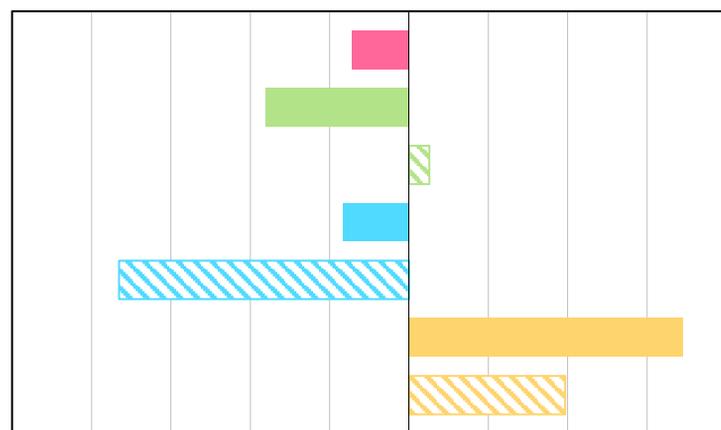
※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2017年8月末の基準価額	10,835 円
2017年7月末の基準価額	10,861 円
変動額	▲26 円

内訳	合計
国内株式ファンド	▲7 円
先進国株式ファンド	▲18 円
新興国株式ファンド	3 円
国内REITファンド	▲8 円
先進国REITファンド	▲37 円
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド	35 円
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド	20 円
小計	▲13 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲13 円



▲50 円 ▲40 円 ▲30 円 ▲20 円 ▲10 円 0 円 10 円 20 円 30 円 40 円

※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

ファンドマネージャーのコメント

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

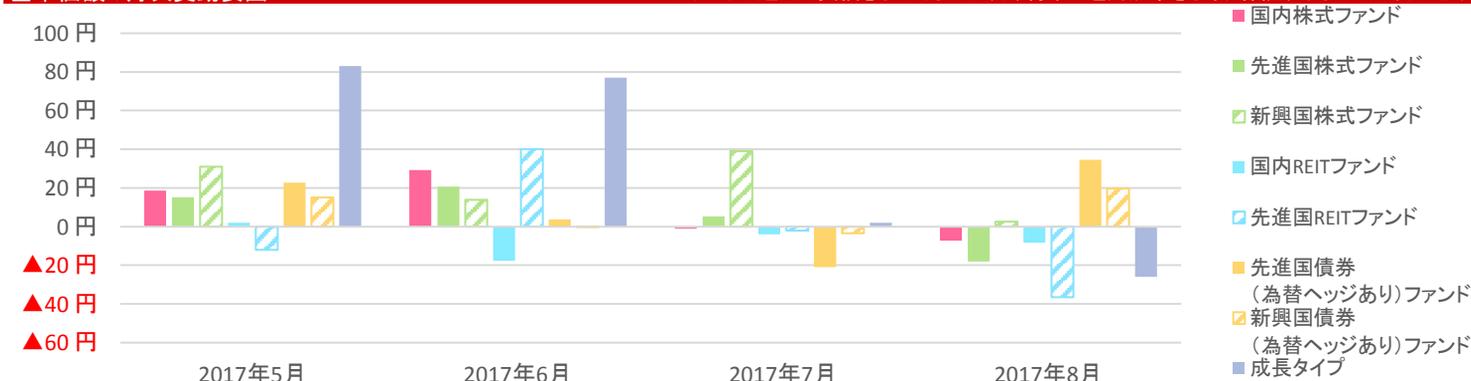
ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりやテキサス州を襲ったハリケーンの影響、米バージニア州での暴動に対するトランプ大統領の発言をきっかけとした米国政治の混乱などを受けて、先進国REITファンドや先進国株式ファンドがファンドの下落要因となりました。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



《投資環境》

市況概況

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

(国内株式)

国内株式市場は、第1四半期の決算発表が本格化し、好決算を発表した銘柄を中心に上昇して始まりました。しかし、その後は、北朝鮮がグアム周辺を中距離弾道ミサイルで包囲射撃する作戦を検討しているとの報道を受けて、投資家のリスク回避姿勢が強まり、為替が円高米ドル安で推移し株価は下落しました。月末にかけては、米国で税制改革期待が高まったことや、円高米ドル安が一服したことなどが好感され株価は上昇しました。

(先進国株式)

先進国株式市場は下落しました。良好な4-6月期業績や経済指標を好感して堅調なスタートとなりました。その後は、北朝鮮の核・ミサイル開発をめぐる米国・北朝鮮間の緊張激化、米バージニア州での暴動に対するトランプ大統領の発言をきっかけとした米国政治の混乱、スペインでのテロ事件などから月半ばにかけて軟調な展開となりました。トランプ政権の税制改革が前進するとの観測から反発に転じる場面があったものの、地政学リスクへの警戒、米国財政をめぐる議会審議への不透明感などが重しとなり、上値の重いまま月末を迎えました。

(新興国株式)

新興国株式市場は上昇しました。中国関連株式市場（香港市場）は、好調な企業決算と国有企業の改革が進み始めたことが好感されて堅調、インフレ率の低下による金利低下が内需拡大につながったブラジル、ロシアも上昇しました。タイも4~6月期実質GDP等の経済指標が好調だったことから買われました。一方、インドは、物品・サービス税導入等の影響による消費減速が嫌気されて軟調に推移しました。

(国内リート)

国内リート市場は小幅下落となりました。月前半は、北朝鮮の相次ぐミサイル発射を受けて米朝間の緊張が高まったことから地政学リスクが嫌気され、下落基調となりました。月後半は、世界の株式市場が徐々に落ち着きを取り戻す中、国内リート市場も反発に転じました。地政学リスクの高まりを背景として日米欧の長期金利が低下傾向となったことも、配当利回り面での魅力から国内リート見直し買いの一因となったと思われます。

(先進国リート)

海外リート市場はまちまちの展開となりました。米国では北朝鮮を巡る地政学的リスクの高まり、テキサス州を襲ったハリケーンの影響などが相場の重石となりました。欧州ではイギリスが横ばいとなりました。アジア・オセアニアでは産業施設リート中心にオーストラリアは上昇しましたが、中国からの資金流入が減速するとの懸念から香港が下落しました。

(先進国債券)

先進国債券市場では、豪州を除いて金利はおおむね低下し堅調に推移しました。米国トランプ政権の政策実行能力への懸念が高まったことや、北朝鮮に関する地政学リスクが意識されたことで、市場のリスク回避姿勢が強まり、海外債券市場の金利はおおむね低下し堅調に推移しました。豪州では住宅関連などの経済指標が市場予想を上回る結果となったことを受けて、金利は小幅に上昇し軟調に推移しました。

(新興国債券)

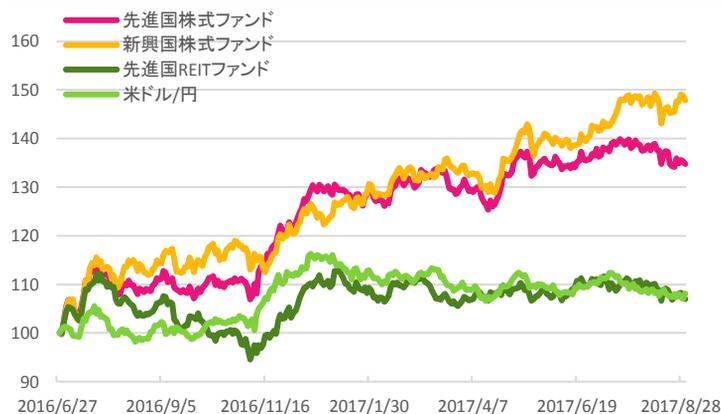
米ドル建て新興国債券市場は上昇しました。北朝鮮に関する地政学リスクが意識された場面では、米国債の金利が低下したことでスプレッド（米国債との利回り格差）は拡大しましたが、その後は緩やかに縮小傾向となりました。個別要因によって大きくスプレッドが動いた国はありましたが、ほとんどの新興国のスプレッドは小幅な動きとなりました。

(為替)

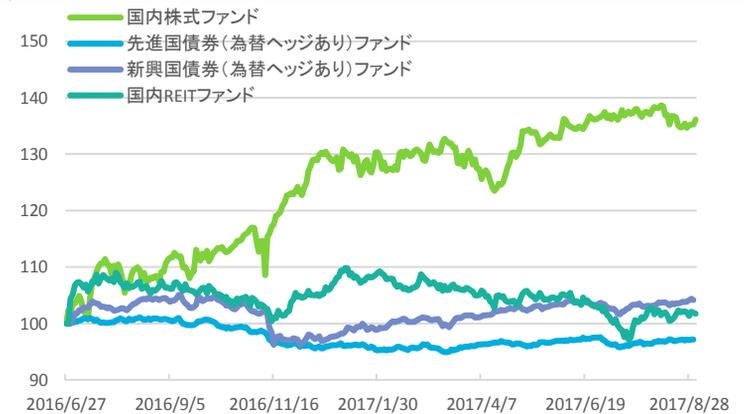
為替市場では、通貨によってまちまちの動きとなりました。ドラギECB（欧州中央銀行）総裁の講演において、一部予想に反し、ユーロ高に対する懸念が示されなかったことなどを受けて、ユーロが対円で上昇しました。一方で、北朝鮮に関する地政学リスクが嫌気され、市場のリスク回避姿勢が強まったことから豪ドルなどの通貨は対円で下落しました。

新興国通貨は、通貨によってまちまちの動きとなりました。インド準備銀行による利下げを受けて、景気への強気な見方からインドルピーは上昇、財政赤字の拡大が懸念材料となったブラジルリアルは下落しました。対円についても、まちまちの値動きとなりました。

組入ファンド(為替ヘッジなし)と為替の価格の推移



組入ファンド(為替ヘッジありおよび国内資産)の価格の推移

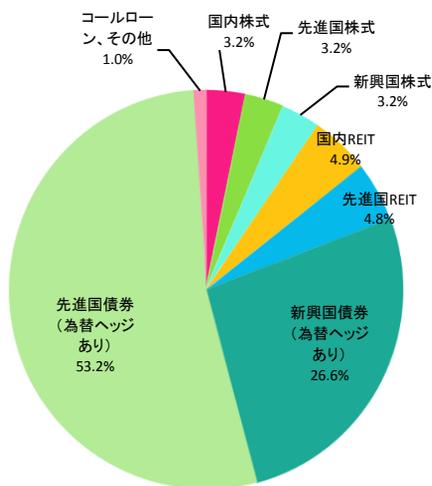


※ファンド設定日を基準として指数化しています。

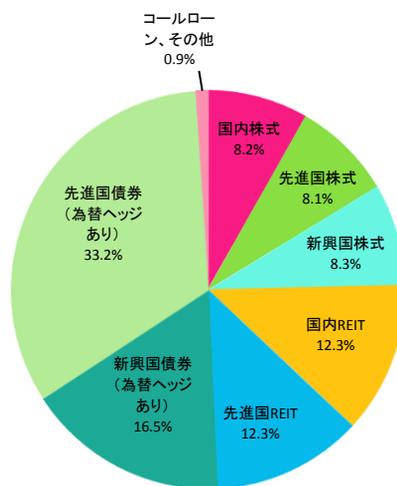
各コースの資産・通貨別構成と基準価額の比較

資産別組入ファンド比率(純資産比)

安定タイプ



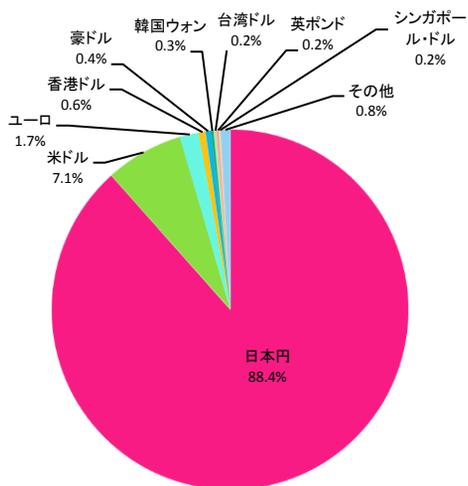
成長タイプ



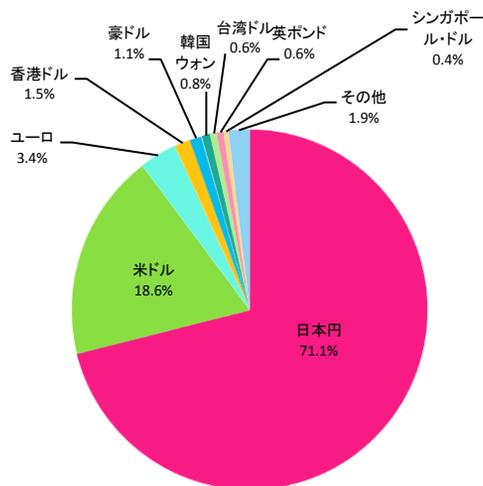
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

通貨別構成(純資産比)

安定タイプ



成長タイプ



※大和投資信託のデータを基にワイエムアセットマネジメントが計算しています。

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

基準価額(分配金再投資)の比較

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

当初設定日(2016年6月24日)~2017年8月31日



※「基準価額(分配金再投資)」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください)。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《ファンドの目的・特色》

ファンドの目的

- 内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資し、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

ファンドの特色

1. 複数の投資信託証券への投資を通じて、主として内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資します。
2. 各資産への投資比率が異なる「安定タイプ」と「成長タイプ」の2つのタイプから選択できます。
3. 山口フィナンシャルグループの運用会社であるワイエムアセットマネジメント株式会社がファンド運用を行ないます。
4. 内外の債券、株式およびリートを実質的な投資対象とする複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

- ・各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
YM アセット・バランスファンド（安定タイプ）：「安定タイプ」
YM アセット・バランスファンド（成長タイプ）：「成長タイプ」
- ・各ファンドの総称を「YM アセット・バランスファンド」とします。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

《ファンドの費用》

お客さまが直接的に負担する費用		
購入時手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	
お客さまが信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 (信託報酬)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して次に掲げる率	
	安定タイプ 年率 1.107% (税込)	成長タイプ 年率 1.215% (税込)
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.2052% (税込) ~ 年率 0.324% (税込)	年率 0.2052% (税込) ~ 年率 0.324% (税込)
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.380%程度 (税込) *	年率 1.482%程度 (税込) *
その他の費用・ 手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。	

*実際の組入状況等により変動します。

※手数料等の合計金額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

《当資料のお取り扱いにおけるご注意》

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメント株式会社により作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

- ▶ ワイエムアセットマネジメント株式会社
083-223-7124（営業日の9:00～17:00）

当社ホームページ

- ▶ <http://www.ymam.co.jp/>

《販売会社》

販売会社（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）	登録金融機関	登録番号	加入協会	
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○	○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○	○
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○	

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。